

医療崩壊が起きないために

今朝ニュースを聞きながら出勤していると京都大学山中教授が、日本で起きかねない医療崩壊は欧米で起きている医療崩壊とは違ったものだというようなことをおっしゃっていました。欧米の医療崩壊が患者の急増により病院や医師・看護師で対応できる容量を超え、治療が追いつかないのに対し、日本で起きようとしている医療崩壊は、医療従事者に対する偏見や差別あるいは過重労働により医師・看護師がやめ、そのことにより医療崩壊が起きるといえるのです。医療現場では細心の注意を払っても院内感染は起こり得るものです。院内感染が起きたことを誰のせいだとか、病院で起きたことを問題視したり、そこで働く人や家族を排除するような偏見や差別が日本の医療崩壊を招くということです。医師・看護師などの医療従事者に敬意を払い保護することが必要なのですが、この様な状況を招きつつあるというのは残念なことです。

『感染者や医療関係者やそのご家族などを誹謗・中傷・差別することは絶対にやめてください』島根県からも県民の皆さまへお願いとしてこの様なメッセージを発信しています。また、日本赤十字社は新型コロナの3つの顔のスライドにまとめ公表しています。そこでは第1の感染症が「病気」そのもので、第2の感染症が「不安・恐れ」、そして第3の感染症は「嫌悪・偏見・差別」この3つが負のスパイラルでつながり感染症が広がっていくものだといっています。

さらに、「不安から買い占めに並ぶ中高年、自粛しない若者」といった一部の行動をことさらに大きく取り上げるとは、人々の連帯感を削ぎ、世代間の差別・分断を招きかねません。このような流れに安易に流されたり、助長しないような注意が必要だとしています。

対策としては、感染予防のための手洗いや咳エチケットの徹底をするほか、「まずは自分を見つめてみましょう」として、深呼吸をしたりお茶を飲んで一息入れたり、「何かと感染症と結びつけて考えていないか、趣味の時間や親しい人との交流が減っていないか」などを振り返り、普段と変わらず続けられることを探すこと、さらには「ウイルスに関する情報から距離を置く時間を作る」などして、不安から身を守るための方法を紹介しています。

生徒の皆さんには、臨時休業に入る前に担任から次のことを伝えていきます。今一度確認して冷静に対応し、不確かな情報やデマに惑わされることがないように行動してください。

- ・全国的な広がりの様子を見ても、誰もが感染者、濃厚接触者になり得る状況であり、引き続き手洗い、うがい、マスクの着用及び「三密」（密閉・密集・密接）を避けるなど予防に努めること。
- ・感染症の拡大とともに、感染者や濃厚接触者とその家族、対策や治療にあたる医療従事者等に対する差別や偏見が起きていることが報じられているが、決して許されないことである。
- ・差別や偏見を生まないために、一人ひとりが自らの言動に注意してほしい。
- ・特にスマートフォン、インターネットの利用において、不確かな情報を鵜呑みにしたり、拡散しないこと。
 - ◇ SNS等に見られる不確かな情報を安易に信じ込まないこと。不安な場合は保護者の方や学校に相談すること。
 - ◇ SNS等で根拠のない噂を流したり、個人的な中傷をするなどの不適切な書き込みをしたりしないこと。

本日で臨時休業5日目です。

計画的な学習とともに、ストレス解消のためには運動も必要です。

毎日30～60分程度を目安にいろいろな運動にも取り組もう。

